

Safety Data Sheet

Roxtec Lubricant (JP)

Internal document ID and revision
ROXNAV-1492 Rev. 3.0

Current version publish date
2022-11-24

Originally compiled
2018-12-11

Previous version publish date
2019-11-08

セクション 1 – 化学品及び会社情報

1.1 製品名

Roxtec 潤滑剤
CAS 番号: 61789-97-7
EC 番号: 263-099-1

1.2 推奨用途及び使用上の制限

Roxtecシーリングシステム部品の潤滑

1.3 サプライヤ情報

Roxtec International AB
Box 540, 371 23 Karlskrona, Sweden
電話: +46 455 36 67 00
Fax: +46 455 820 12
info@roxtec.com
www.roxtec.com

1.4 緊急連絡先 (受付時間)

Roxtec International AB
電話: +46 455 36 67 00
営業時間: 08.00-16.00 (CET)
情報の制限: 情報は英語のみです。

セクション 2 – 危険有害性の要約

2.1 物質または混合物の分類

この製品は、CLP 規則、EC 1272/2008、または化学品の分類および表示に関する世界調和システム (GHS) 2015 年改訂 6 に従って危険物として分類されていません。

この物質は、REACH 規則、EC 1907/2006 第32条あるいは化学品の分類および表示に関する世界調和システム (GHS) 2015年改訂第6版において、安全データシート要件の対象ではありません。

2.2 ラベル要素

本製品には、絵表示もしくは申告が必要な物質または同物質の濃度レベルは含まれていません。

2.3 他の危険有害性

本製品には、PBT または vPvB 物質は含まれていません。

セクション 3 – 組成及び成分情報

3.1 物質

本製品には、絵表示もしくは申告が必要な物質または同物質の濃度レベルは含まれていません。油脂（油脂）：CAS 番号: 61789-97-7、EC 番号: 263-099-1。

3.2 混合物

非該当。本製品は物質です。

セクション 4 – 応急措置

4.1 必要な応急措置に関する説明

肌に触れた場合：石鹼と水で洗浄してください。
眼に入った場合：きれいな水でよくすすいでください。

4.2 最も重要な症状/作用、急性と遅発

肌に触れたり、眼に入ったりした場合、軽い炎症を起こすおそれがあります。

4.3 即時医療措置および必要時は特殊治療が必要な場合の兆候

即時医療措置または特殊治療は不要です。必要な場合、対症療法。

セクション 5 – 火災時の措置

5.1 適切な消火剤

適切な消火剤：乾燥粉末、泡消火剤または二酸化炭素
適切でない消火剤：水

5.2 火災時の措置に関する特有の危

加熱油脂は引火性および刺激性ガスを発生する場合があります。燃焼時に一酸化炭素および二酸化炭素ガスの発生。

5.3 消防士に必要な特別保護措置

欧州規格 BS EN 469、手袋 (BS EN 659) と長靴 (HO 仕様 A29 および A30) または同等の要件に準拠した通常の消防士用保護服を着用してください。自給式開回路正圧型圧縮空気呼吸装置を使用します (BS EN 137)。

セクション 6 – 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

緊急を要しない個人および緊急対応者向け：必要に応じて、アレルギー試験済みの「低耐薬品性」保護手袋および安全眼鏡を使用します。

6.2 環境上の注意事項

排水溝、下水システム、水面および地下水への流出を防止してください。

- 6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材**
滑る危険がありますので、漏出物は速やかに除去してください。排水溝を覆い、温水とよく吸収する素材のものでしっかり拭き取ってください。
- 6.4 他のセクションの参照**
保護具および廃棄時の注意点については、セクション 8 および 13 を参照してください。

セクション 7 – 取扱い及び保管上の注意

- 7.1 安全取扱い上の注意事項**
滑る危険がありますので、こぼれないよう防止策を取ってください。
排水溝および水面と地下水への流出を防止してください。
使用後は、手をよく洗浄してください。
本製品の使用中は、飲食または喫煙はしないでください。
汚れた衣服および保護具は、食事をする場所へ移動する前に脱いでください。
- 7.2 配合禁忌を含む、安全保管の条件**
特に推奨事項はありません。可能な場合は、冷却保存をお勧めします。
- 7.3 特定の最終用途**
関連情報はありません。

セクション 8 – ばく露防止及び保護措置

- 8.1 制御パラメータ**
この物質に暴露限界値はありません。
- 8.2 暴露管理**
敏感な人は、アレルギーテスト済みの「低耐薬品性」保護手袋を使用できます。
飛散のリスクがある場合は、必要に応じて、安全眼鏡を着用してください。
環境暴露管理については、セクション 6、12 および 13 を参照してください。

セクション 9 – 物理的及び化学的性質

- 9.1 基本的な物理および化学特性**
- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| a) 外観 (形態と色) | 白色グリス、糊 |
| b) 臭い | 多少の油脂臭 |
| c) 臭い閾値 | 該当なし |
| d) PH | 該当なし |
| e) 融点/氷点 | 該当なし |
| f) 初留点と沸騰範囲 | 該当なし |
| g) 引火点 | 約 +280 °C. |
| h) 蒸発率 | 関連なし |
| i) 引火性 | 該当なし |
| j) 引火上限界/引火下限界または爆発限界 | 該当なし |
| k) 蒸気圧 | 関連なし |
| l) 蒸気密度 | 関連なし |
| m) 相対密度 | 890 kg/m ³ |

n) 溶解度	有機溶剤で溶解、水に不溶
o) 分配係数: n-オクタノール/水	該当なし
p) 自然発火温度	関連なし
q) 分解温度	該当なし
r) 粘度	関連なし
s) 爆発特性	関連なし
t) 酸化特性	関連なし

9.2 その他の情報

該当なし

セクション 10 – 安定性及び反応性

10.1 反応性

通常の使用条件では危険な反応を引き起こす条件は確認されていません。

10.2 化学的安定性

本製品は、通常の使用および保管状態では安定しています。

10.3 危険有害反応可能性

通常の使用条件では危険な反応を引き起こす条件は確認されていません。

10.4 避けるべき条件

非常な高温

10.5 混触危険物質

通常使用の場合に混触危険物質は確認されていません。

10.6 危険有害な分解生成物

通常状態の使用の場合に危険な分解生成物は確認されていません。

セクション 11 – 有害性情報

11.1 毒性作用に関する情報

- a) 急性毒性
いずれの危険物にも分類されていません。
- b) 皮膚腐食性/刺激性
いずれの危険物にも分類されていません。
- c) 眼に対する重篤な損傷/刺激性
いずれの危険物にも分類されていません。
- d) 呼吸器または皮膚感作性
いずれの危険物にも分類されていません。
- e) 生殖細胞変異原性
いずれの危険物にも分類されていません。
- f) 発癌性
いずれの危険物にも分類されていません。
- g) 生殖毒性
いずれの危険物にも分類されていません。
- h) 特定標的臓器毒性 - 単回暴露
いずれの危険物にも分類されていません。
- i) 特定標的臓器毒性 - 反復暴露

いずれの危険物にも分類されていません。

k) 吸引の危険

いずれの危険物にも分類されていません。

可能性のある暴露経路に関する情報

皮膚に触れたり、眼に入ったりした場合、軽い炎症を起こすおそれがあります。

物理、化学および毒性特製に関連する症状
情報は確認されていません。

遅発および即時作用、また短期、長期暴露による慢性作用
推定される作用はありません。

毒性の数値測定（急性毒性推定など）

確認できる情報はありません。

相互作用

確認できる情報はありません。

セクション 12 – 環境影響情報

12.1 毒性

水中生物に対する毒性はありません。

12.2 残留性・分解性

生物分解性があると思われます。

12.3 生体内蓄積能

この物質は危険物には分類されていません。

12.4 土壌中の移動性

水溶性ではありません。生物分解性があると思われます。

12.5 PBT および vPvB 評価の結果

本製品には、PBT または vPvB 物質は含まれていません。

12.6 その他の悪影響

副作用は確認されていません。

セクション 13 – 廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

本製品は、有害廃棄物に分類されていません。国および地方の廃棄物管理法令への遵守が必要です。内容物の廃棄処理方法として、堆肥化または焼却が可能です。きれいにした容器の廃棄処理方法として、焼却またはリサイクルが可能です。
下水処理は避けてください。

セクション 14 – 輸送上の注意

本製品は、危険物の国際陸上輸送 (ADR) および国際鉄道輸送 (RID) に関する規定、国際海上危険物規則 (IMDG)、および国際民間航空輸送協会 (IATA) の規定の現行条項において危険ではありません。

14.1 国連番号

危険物として分類されていません。

14.2 国連適正輸送名

該当なし

14.3 輸送危険分類

該当なし

14.4 梱包グループ

該当なし

14.5 環境上の危険物

該当なし

14.6 使用者のための特別な予防措置

該当なし

14.7 MARPOL 73/78 および IBC 規則付録 II に準拠した一括輸送

該当なし

セクション 15 – 適用法令

15.1 国際規格 モントリオール議定書（付属文書A、B、C、E）

非該当。

残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約

非該当。

事前通報承認制度（PIC）に関するロッテルダム条約 化学兵器禁止条約リストスケ
ジュール、II、IIIの化学物質

非該当。

POPおよび重金属に関するUNECEオルフス（Aarhus）議定書

非該当。

セクション 16 – その他の情報

本版は更新版安全データシート (SDS) と入れ替えます：2019-11-14

更新版SDSの変更理由：一般的な更新